

新型コロナウイルスワクチン接種についての Q&A

Q. 妊娠中でも新型コロナウイルスワクチンを接種しても大丈夫ですか？

A. アメリカ疾病対策センター（CDC）は妊婦さんへのワクチン接種を強く推奨する声明を出しています。日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会でも、妊婦さんは時期を問わずワクチンを接種することが推奨されています。予防効果の継続を図るために2回目3回目の接種もお願いいたします。

Q. 妊婦以外の同居の家族も接種した方が良いですか？

A. 妊婦さんが感染する場合の約8割は、同居のご家族からの感染です。ご家族の方もできるだけワクチンの3回接種をお勧めします。

Q. 授乳への影響は大丈夫ですか？

A. このワクチンの性質から、母乳移行量は非常に少ないと考えられています。実際にワクチン接種後の母乳移行について調べた研究では、母乳中に mRNA は検出されていません。また、母乳中に抗体が移行し、授乳中の子供を感染から守る効果があることが期待されています。

Q. ワクチンを接種すれば感染は予防できるのでしょうか？

A. ワクチン接種により、感染や重症化の可能性を低く抑えることが期待されていますが、人混みを避ける、手洗いをする、外出時にはマスクをする等の予防策は大切です。ワクチン後も予防策をお願いします。

Q. ワクチンの副反応は妊娠している場合は強くなったりしますか？

A. 副反応に関し、妊婦さんと一般の人に差はありませんが、発熱した場合には早めに解熱剤を服用するようにしてください。当院でお出ししたお薬（アセトアミノフェン）は妊娠中でも内服していただいて問題ありませんので頭痛がある場合も内服してください。

Q. ワクチンの接種で流産、早産の原因になりませんか？

A. 副反応の有無にかかわらず、妊娠の異常（流産、早産、その他）の頻度はワクチンを打たなかった妊婦と同じであると報告されています。

Q. これまでに認められている副反応はどのような症状でしょうか？

A. 現在、日本で接種が進められている新型コロナワクチンでは、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

Q. 副反応は1回目の接種後より2回目以降の接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか？

A. 1回目のワクチン接種でいくらか免疫がつくことで、2回目以降の接種の方が、免疫反応が起こりやすくなるため、発熱や倦怠感、関節痛などの症状が出やすくなります。